

市民公開講座

子どもの健全な発達と 成長のために大事なことは

2019年9月16日(月・祝) 12:10-15:35 (12:00 開場)

明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー・1133 教室

千代田区神田駿河台 1-1 JR 中央線・総武線/御茶ノ水駅下車徒歩約3分

●申し込み：9月12日17時までに[申し込みフォーム](https://forms.gle/w3PicbYYoh43oMrj7)にご記入ください
(先着140名) (<https://forms.gle/w3PicbYYoh43oMrj7>)

●資料代：500円 ●お問合せ：「生活環境と健康研究会」事務局

seikatsukankyokenkouken@gmail.com



企画責任者・司会進行：北條祥子，黒岩義之，寺田良一

I 開会の挨拶(趣旨説明) 北條祥子(主催者代表，尚絅学院大学名誉教授)

II 講演

1. 小児神経学専門医の立場から (12:15-13:15)
星野恭子氏 (昌仁醫修会瀬川記念小児神経学クリニック・理事長)
2. 基礎脳科学研究者の立場から (13:15-14:15)
木村一黒田純子氏 (環境脳神経情報センター・副代表)
3. 環境過敏症専門外来小児科医の立場から (14:15-14:35)
小倉英郎氏 (医療法人高幡会大西病院・院長)
4. 臨床環境医学専門医の立場から (14:35-14:55)
角田和彦氏 (かくたこども&アレルギークリニック・院長)
5. 社会医学者の立場から (14:55-15:10)
上田 厚氏 (NPO 法人アジアヘルスプロモーションネットワーク・理事長)
6. 脳神経内科医の立場から (15:10-15:30)
黒岩義之氏 (帝京大学医学部附属溝口病院・脳卒中センター長)

III 閉会の挨拶(まとめ) 寺田良一 (明治大学文学部心理社会学教授)

主催

日本臨床環境医学会環境過敏症分科会，室内環境学会環境過敏症分科会，生活環境と健康研究会

協賛・後援 (交渉中を含む)

宮城県保険医協会，早稲田大学応用脳科学研究所，NPO 法人市民科学研究室，

NPO 法人アジアヘルスプロモーションネットワーク，NPO 法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議

市民公開講座の開催にあたって

本市民公開講座の目的は国の将来の命運を担う子どもの健全な発達を守るという臨床環境医学的な立場から、あらゆる市民の叡智を投入した生活様式の工夫による疾患予防と具体的な実践についてみんなで考えることです。「子どもの権利条約」（国際連合）では、持って生まれた能力を発揮するのに必要な健全な発達と成長が子どもの権利として保証されています。AI（人工知能）ロボットが絵を見て「これは猫だ！」と分かるには1000万枚以上の絵で学習しないとできません。しかし母親が幼児に絵本を見せると子どもは「これは猫だ！」とビッグデータがなくても一瞬にして分かります。AIを凌駕する人の知性は、ほぼ3歳までに完成します。国際連合や世界保健機構で地球温暖化防止や禁煙活動など地球上の環境整備の努力が推進されてきたことは周知のことですが、かけがえのない宝である子どもの脳を守るには、取り巻く身近な環境の管理が特に重要です。脳の発達は妊娠中の母親の食事や睡眠、あるいは生まれた直後からの睡眠や栄養に左右されます。近年では国民が医師や病院に全てを依存するのではなく、自らが自らの健康を守り、病気への対処に積極的に関わる「参加型医療・ヘルスケア」の実践がうたわれています。子どもの健全な発達には、悪い食生活環境、運動不足、スマホによる夜更かし、農薬など有害な環境化学物質による環境汚染をなくす努力が大切です。

講師・企画責任者のプロフィール（★は企画責任者）

黒岩義之（★）：医学博士、専門医（日本神経学会・日本脳卒中学会・日本臨床神経生理学会）。東京大学医学部医学科卒。岩手医科大学神経内科助教授、虎の門病院部長、横浜市立大学医学部長、全国医学部長病院長会議会長、帝京大学溝口病院・脳卒中センター長を歴任。東京都医学総合研究所理事、厚生省重篤副作用総合対策検討会委員、「脳神経内科」誌編集委員長。

星野恭子：東邦大学大森病院第一小児科。2000年子どもの早起きをすすめる会を結成。2013年優れた「早寝早起き朝ごはん」文部科学大臣表彰受賞。2017年医療法人社団 昌仁醫修会 瀬川記念小児神経学クリニック理事長就任。臨床研究を中心とした睡眠の啓発活動の拠点を目指している。日本小児科専門医、日本小児神経学会評議員、日本トウレット協会理事。

木村一黒田純子：医学博士（環境ホルモン学会、日本毒性学会、日本臨床環境医学会）、お茶の水女子大学大学院修士課程卒。東京都神経科学総合研究所、東京都医学総合研究所元研究員。環境脳神経科学情報センター副代表。著書：発達障害の原因と発症メカニズム（2014、黒田洋一郎と共著、河出書房新社）、地球を脅かす化学物質（2018、海鳴社）。

小倉英郎：医学博士（日本臨床環境医学会、日本小児科学会、日本アレルギー学会専門医、小児アレルギー学会、高知大学臨床教授）、1970年岡山大学医学部卒業、高知大学小児科助教授、国立病院機構高知病院・副院長を経て、2014年より医療法人高幡会大西病院・院長。2005年より、国立高知病院のCS外来にて、CS患者の診断・治療に従事している。

角田和彦：静岡県出身。1965年東北大学医学部卒業。専門（臨床環境医学、アレルギー）。2004年かくたこども&アレルギークリニックを開業、生活環境と病気、生活環境と子どもの成長・発達をテーマに診療。日本臨床環境医学会評議員。アレルギーと化学物質、アナフィラキシー、シックハウス症候群、化学物質過敏症に関する論文書籍多数。

上田 厚：熊本大学名誉教授、1969年熊本大学医学部卒、熊本大学医学部公衆衛生講座講師、鹿児島大学医学部衛生学助教授、熊本大学医学部衛生学教授を経て、現在、NPO法人東アジアヘルスプロモーションネットワーク理事長。長年、患者組織（水俣病患者会、CS熊本の会など）との連携を図りながら研究調査活動を実施。

寺田良一（★）：専門：環境社会学、社会学修士、環境社会学会元会長、1982年東京都立大学大学院社会科単位取得後退学、佐賀大学教養部助教授、都留文科大学文学部教授を歴任後、2004より明治大学文学部心理社会学科教授。NPO法人・有害化学物質削減ネットワーク副理事長。著書『環境リスク社会の到来と環境運動』晃洋書房等。

北條祥子（★）：尚絅学院大学名誉教授。歯学博士（生化学）、医学博士（環境医学、疫学）。東北大学医学部薬学科卒。東北大学歯学部（25年）、尚絅学院大学（18年）、東京大学医学部客員研究員（10年）、早稲田大学応用脳科学研究所招聘研究員（8年）を歴任。日本臨床環境医学会環境過敏症分科会・代表、室内環境学会環境過敏症分科会・世話人、生活環境と健康研究会・代表。